

# 令和2年度作文コンクール

安全振興会では、生徒の皆さんの安全意識の向上を図るために、「安全」又は「健康」をテーマに作文コンクールを実施しています。今年度も素晴らしい作品が多数寄せられました。萩元幸治委員長、井上謙副委員長、高梨智、清野史康、米山謙、程島宏美委員の6人の元校長先生に審査をお願いしました。最終選考会では、最優秀2編、優秀6編、佳作20編が決定されました。この中から最優秀に選考された作品を掲載しました。

## 最優秀賞

### コミュニケーションを大切にできる看護師を目指して

県立二俣川看護福祉高等学校 三年

谷口 柚羽

現在、新型コロナウィルス感染症により、医療現場でのコミュニケーションの在り方が変化している。院内感染を防ぐために、看護師が患者さんを訪室することが制限されていることをニュースで知った。そのことにより、看護をする上で大切なコミュニケーションも大きく制限されてしまつたろう。そこで、訪室の回数を減らしつつ、入院生活に必要な相談や依頼をできるというスマートフォン用のアプリの開発が進められているということだった。

私は、看護師を目指して高校の看護科で学んでおり、看護とは何か考えてきた。今、私は、看護とは患者さんの身体の変化だけでなく心の変化にも気づき、患者さんと話し合いながら苦しみを緩和するものであると考えている。そして、心の変化に気付くために、コミュニケーションをとることはとても重要だと考える。

現在、顔を合わせてコミュニケーションを取ることが難しい状況の中で、心の変化に気づくのは困難であり、患者さん自身も、家族や友人と面会ができず隔離されていることに強い不安や悲しみなどを感じ、精神的にも追い詰められているのではないかと思う。そのような状況の中で、対面できなくてもスマートフォンアプリを使用し話せるということとは、患者さんにとって、誰かと話せるという心強さにつながり、看護師も患者さんの気持ちや考えを知ることが、寄り添うことができると思う。しかし、スマートフォンを利用していない高齢者や子どもなどは利用できず、対象が限られるという欠点もある。そのため、全ての人利用できるように、操作自体が簡単なものにし、高齢者の方でも見やすいタブレットを使用したり、子どもでも読めるようなひらがなを活用したりする必要があると思う。現在は、開発中であるが、人と人の交流が難しい状況の中で、このようなツールを利用しながら、患者さんと看護師のコミュニケーションがしっかりとれ、信頼関係が築いていけるようになってほしい。また、このようなアプリを患者さんのために看護師がどう使うかということが課題であり、直接、接することが制限される厳しい状況の中で、現状を受け止めどう対応していくかが大切であると考えている。

私が看護師として働く頃には、さらに高齢化が進み在宅医療が重視されるなどの変化があるだけでなく、新型コロナウィルス感染症が流行したことによる医療現場の変化があると思う。コミュニケーションの在り方についても変化があり、私たちは様々な工夫をしなければいけないかもしれない。しかし、どのような状況であっても、私はコミュニケーションを大切にし、患者さんに寄り添い支える存在となる看護師を目指したい。そのために変化する医療や看護について関心を持ち考えることや人とのつながりを大切にするこを、普段の生活の中で心がけ努力していきたいと思う。

## 最優秀賞

### 「自分らしく」と言われて

県立小田原高等学校 一年

古藤 杏奈

「自分らしく生きたい」

周りに流されてしまったとき、自分の意見を言えなかったとき、誰もが一度は思ったことがあるのではないだろうか。もしくは、周りに「自分らしくいけばいいのに」と言われたことがある人もいると思います。突然ですが、私は、中学二年生のころ、いわゆる「いじめ」を受けていました。内容は一部の人たちによる小さな嫌がらせのようなものでしたが、それでも当時の私の心を崩すには十分でした。休み時間は保健室に通い、何事もなく話してくれる友達と、助けてくれる先生に頼る日々。支えてもらう中で何度も言われたのが、「負けずに自分らしくいけばいいから」という言葉でした。私はこの言葉に励まされ、それ以上に悩まされました。当時わからなかったこのモヤモヤの理由が今ならわかります。 ”どんな姿も自分だから！”

私は、私。当たり前だと思うかもしれませんが、本当に理解している人は少ないように思います。いじめられて言い返せない自分。逃げることを選んだ自分。それは、自分らしくいることも諦めたわけではなく、自分らしい選択をしただけでした。その選択を、味方でいてくれた人に「負け」だと言われることは、自分自身を否定されたようで苦しかったのだと思います。

この経験と気付きを通して、私は、みなさんに、どんな自分も受け入れて愛してほしいということをお願いしています。自分を好きになれないこと、誰かと比べて辛くなること、誰にでもあると思います。あるときははっきり意見を言う人を羨ましがり、あるときは周りの意見を聞ける人を羨ましがります。そんなとき、

「あの人みたいにになりたい」

「何にもできない自分を愛えない」と

「本当の自分を出せない」と

「ちゃんと自分らしくいない」と

と、自分自身に呪いをかけていませんか。自分を追い込んで辛い思いはしていませんか。

思い通りにいかないことは、自分のせいではありません。中学二年生の私が堂々と行動できなかったのは、いじめがあったから。自分の意見を言えないのは、意見を言う誰かがいるから。私たちは、周りに影響されて生きています。そんな関わりの中で変わる自分を受け入れ、愛する気持ちを持つことが、人生をより楽しく豊かに生きるための第一歩なのではないでしょうか。

私は、どんな自分も大好きです。